

梅窓院通信

No.50
2011/01/01

青山



第1回秋彼岸写真展コンクールグランプリ作品
「アタミサンライトシャワー」撮影： 様

今年も第2回秋彼岸写真展コンクールの開催が決定致しました。詳細は夏ごろ発表します。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

新年明けましておめでとございます。

今年は、法然上人が極楽往生されて八百回忌を迎えます。浄土宗では八百年大遠忌の年としていくつもの法要を行いますが、梅窓院でも五月に移る施餓鬼会（二十一日）と併修して大法要を執り行ないます。記念すべき年を運よくこうして迎えられることに感謝し、上人への報恩感謝の法要にできればと思っています。

昨春秋にお願い致しました墓地管理費の改訂につきましては、多くの檀家の皆様のご理解をいただき誠にありがとうございました。紙面からですが、衷心より御礼申し上げます。

また、今号で第五十号を迎えた梅窓院の広報紙『青山』ですが、施餓鬼会の五月移行に伴い、昨までの年五回発行を、今年から年六回の発行とさせていただきます。『青山』はお寺からお知らせしたいことをお伝えするとともに、梅窓院ならではの紙面展開をして参りました。これからもよろしくご愛読下されば幸いに存じます。

なお、『青山』は檀家さんと信徒さんにお届けさせていただきますが、信徒さんでお読みにならないという方は、ご連絡いただければ、お届けを止めさせていただきます。ですが、お寺からのお知らせもありますので、できればお読みいただければと思っております。

さて、記念すべき第五十号の表紙は第一回秋彼岸写真展コンクールで人気投票第一位の写真で飾らせていただきました。これからも毎年続けていきますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

最後になりましたが、平成二十三年が皆様にとって良い一年になりますように心より祈念申し上げます。

七福神参り点描

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

初

夢に心を踊らせた子供時代がなつかしい。新春正月のめでたさの中で、両親や家族のおだやかな笑顔の中で、なにがなし、うきうきとした正月二日の初夢。昔からいわれる「一富士二鷹三茄子」。

初夢に見ると縁起のよい吉夢の順序次第である。もつといえは、「一富士二鷹三茄子四葬式五雪隠」、あるいは「一富士二鷹三茄子四扇五煙草六座頭」など。ともかく初夢にはよい夢を見たいとだれしも思うことであつた。

よい初夢がみられますように……、と願いを込めて、枕の下に宝船の図を敷いたりして寝るのも昔なつかしい習俗であつた。宝船とは、宝物を山と積んだ帆掛け船で、笑顔いっぱい七福神が勢揃いして乗っているのが普通である。吉運・開運を招く初夢を見るために、宝船の図絵を敷いて寝る習慣は江戸時代に盛んであつた。宝船・宝舟・宝船敷く・宝船敷き寝・宝船売などの季語が掲げられている。

なかきよのとをのねふりのみなめさめ
なみのりふねのをこのよきかな

上から読んでも、下から読んでもまったく同じ、有名な回文歌である。このめでたい一首を宝船の図に書き添

えるのが通例であつた。

初夢の思ひしことを見ざりける (子規)
宝舟目出度さ限りなかりけり (虚子)

さてお正月の初参りに人気の高い七福神、「恵比寿大黒毘沙門天弁財福禄寿寿老人布袋」の組み合わせで、とくに福徳長寿の靈験あらたかな七尊である。

恵比寿(恵比須)は蛭子・夷・戎とも書いて、「えびすさま」「えべすさま」「えべつさま」。海上航海・漁業漁労の神で、商売繁昌の神でもある。風折烏帽子をかぶって、大鯛を釣り上げる円満顔の姿で知られる。

大黒天は梵名がマハーカアラ。インド神話の主神シヴァ神の化身で、本来は武神・戦闘神であつたが、財福神となり、やがて厨房に祀って飲食・食糧の守護神。大国主命と合体視され、右手に打出の小槌を持って大きな袋を背負い米俵を踏まえ、大黒頭巾をかぶつた円満な像容も親しまれている。

毘沙門天は多聞天のことで、北方守護の武神であるが、富貴財宝を司る福徳神としても慕われたのである。

弁財天は弁才天とも書き、古代インド以来の水の女神で、豊穰・福徳を司る女神として知られる。弁財天と書いて財福・財宝に、弁才天と書いて音

楽・芸術・学問に靈験を現した。

福祿寿は、福・祿・寿を合わせて神格化したもの、あるいは中国の道士ともいわれる。

寿老人は、中国宋代の杖を携えた長頭長寿の老人。

布袋は、後梁の禅僧布袋和尚のことで、太鼓腹に大袋をかかえた福姿は有名である。

七福神めぐり了んぬ日和得て (秋櫻子)

七福神詣(七福神参り)は七福詣とか福神詣・福詣ともいい、正月元旦から七日までの間に七福神を巡拝するのである。一日から七日までに一日一尊ずつお参りする七日七福詣、あるいは元旦や三箇日の一日七福詣など、巡拝の形式はいろいろあるが、福徳や長寿や開運に心を寄せる庶民信仰の正月の定番である。

江戸・東京では、谷中七福神がもつとも古いと伝えられている。ほかに、浅草七福神、下谷七福神、深川七福神、山の手七福神、日本橋七福神、隅田川七福神、亀戸七福神、港七福神、品川七福神、など、多くの七福神詣が行なわれたが、梅窓院弁財天は青山七福神の一福尊として広く信仰を集めたのである。

(大正大学教授)



秋彼岸法要の様子

秋彼岸法要・彼岸寄席
9月23日(木)

お彼岸ライブ
9月25日(土)

第51回
念仏と法話の会
10月19日(火)

M・ファン・デン・ブック
ピアノリサイタル
11月13日(土)

文化講演会
10月24日(日)



熱弁をふるう残間氏

十夜法要の様子



十夜法要・芋煮会
11月20日(土)





平成22年元旦に行なわれた修正会。

修正会

しゆしよんえ

2011年1月1日(土)

修正会法要

午前10時～ 2階 本堂

お雑煮

午前11時～ 1階 観音堂エントランス



※お雑煮の振る舞いは元旦のみになります。
なお数に限りがございますので予めご了承下さい(先着400食)。

新年に寄せて

今年も新年を迎えることができました。楽しいお正月をお過ごしの方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。或いは、昨年、ご家族・親しい方に先立たれ、寂しい思いのなか新年を迎えた方もいらっしゃるかと思います。

改めて、お正月の過ごし方について考えてみますと、お正月というただ、晴れやかにお祝いすることばかりだと考えてしまいがちです。

もちろんお祝いも大切ですが、それだけではなく先立たれた方々に思いをはせ、このお正月、「その方々と共に過ごしているんだ」ということを感じて頂く機会でもあるのではないかと思います。

やがて必ず尽きるこの命、明日尽きるかもしれないこの命が今こうしてあり、今年も新年を迎えることが出来たことの尊さ、有難さに気づくことが大切です。

昨年は、テレビや新聞を見ておりますと、人を傷つけたり、命を奪ったりといった心の痛む事件が報じられない日はありませんでした。せめて今年は、こういった事件等が少ない平和な一年であることを切に願うばかりです。

(法務部)



教えて法然上人

七つの質問でわかる浄土宗の教え

平成二十三年は法然上人が亡くなってから八百年目になります。

そこで、もし、法然上人が今いらつしやったとして、ぜひ聞いてみたい質問をいくつか用意して、それを檀信徒（念仏と法話の会の参加者）さんに選んでいただきました。そして、その質問に、梅窓院の仏教講座の先生方を中心にお答えいただいたのが、本特集です。八百年目の年、大遠忌に法然上人の教えに触れ直してみてください。



法然上人プロフィール

1133(長承2年)	美作国(現岡山県)に生まれる
1141(保延7年)	菩提寺に入山し仏教を学び始める
1145(天養2年)	比叡山に入山する
1147(久安3年)	出家受戒する
1175(承安5年)	専修念仏の教えにたどり着く
1188(文治2年)	大原問答で、念仏の教えを確立する
1207(建永2年)	讃岐に流される
1212(建暦2年)	入寂

質問1 念仏を称える教えに行きついた理由は何ですか？

仏道修行の基本的な行ないとして戒・定・慧の三学があげられます。しかし法然上人は私のような愚かなものにはこれらの修行を行なえる能力はないと自覚され、そうした私のようなものでも救われていく教えはあるのであろうかと、自分にあつた教えと実践方法をもとめて比叡山や奈良仏教の智者を訪ね、教えを請いました。しかし、その解決方法を教え示してくれる人はいませんでした。再び黒谷の報恩蔵に籠り、多くの経典・論疏を改めて読み返したのです。そこで唐の善導大師の『観経疏』にある「ただひたすらに心を寄せて阿弥陀仏の名号を、いつも忘れることなく称えることが、まさし

質問2 念仏はなぜ声に出すのですか？

法然上人以前の念仏の考え方には、念仏を一心に「阿弥陀仏の功德を念ずること」とだと考える人たちが多かったのです。また、このころの中に浄土を想い浮かべる(観想)ことが念仏の本筋ととらえる高僧も少なくありませんでした。しかし、

極楽に往生するために、阿弥陀仏自身がお選びになったのが、「口で仏の名を称えること」なのです。往生するために、仏像や塔をたてなければならぬとしたら金銭がないものは往生できません。智慧が必要とされるならば、智慧がないも

く阿弥陀仏が選定され、往生が定まった行、すなわち正定の業と名づける、なぜなら阿弥陀仏が本願に誓われた行だからである」という文に出合います。

末法の世である今、そして機根が劣り、まさに罪悪をかさねている私が救われてゆくには、阿弥陀仏の教えを信じ、そのみ名を称え、阿弥陀仏の極楽浄土に往生することが唯一の生死を離れる道だと確信され、念仏の教えに行きついたのです。



【回答者紹介】
新井俊定(あらいしゅんじょう)
埼玉県・杉戸・天然寺住職。
大正大学出版会主管。
☆5名の講師の中で一番長く仏教講座の講師を担当して下さっています。その年なんと約十一年!!

のは往生できません。戒律を保てる人のみが往生できるならば、破戒のものは往生できません。阿弥陀仏は、ただ、口で南無阿弥陀仏と称えさえすれば、いかなる人でも、必ず往生すると断言されているのです。



【回答者紹介】
中島真成(なかじましんじょう)
梅窓院第二十五世住職。
大本山清浄華院東京出張所長。
☆梅窓院の中興上人で、新生梅窓院の活性化に専念されています。

法然上人の念仏に出会う 「念仏と法話の会」

法然上人の称名念仏、実際に大きな声を出して念仏を称えられるのが、梅窓院で年3回行っている「念仏と法話の会」(「念法会」)です。

実際に念仏をおよそ1時間称えることで気付くこと、体験して感じることは多いものです。皆さんもぜひご参加いただき、一緒に念仏を称えてみませんか。



行道
ぎょうどう

◀2階の本堂へ、お念仏を称えながら僧侶に続いて移動します。

▶お香の入った象の入れ物をまたいで本堂に入ります。これは触香といい、心身を清める意味があります。



触香
そくこう



称名念仏
しょうみやうねんぶつ

▲本堂に入ると電気を落とし、ろうそくの火だけがうっすらと見える中、ひたすらお念仏を称えます。



法話
ほっわ

▲毎回梅窓院にご縁のあるご僧侶に法話をお願いしています。



茶話会
さわわかい

▲最後は茶話会です。お菓子をつまんだりしながら、ご僧侶と和やかな雰囲気でお話ができます。

およそ4時間強の行事となります。

※「念法会」の日時は本号8Pの行事予定をご覧ください。

質問3

お念仏はいつ、何回称えたらいいのですか？

結論から申しますと、「いつでも、どこでも、何回でもお称え下さい」です。いつでも、どこでも、誰にでもできることだからこそ、法然上人はお念仏のお宗旨を開かれたのです。

「いつでも」といっても、社会常識上、生活の制約上のご判断にお任せします。しかし日々の暮らしの中で、仏事に限らず、起きふしに、お食事の前後に、うれしいとき、悲しいとき、美しいものに出会ったとき、何でもないとき、お念仏を申すのはいつでも良いのです。



【回答者紹介】

阿川正貫(あがわ・しょうかん)

東京・赤坂・浄土寺住職。

大正大学講師。

☆中国仏教を専門に教えられています。

親しみやすい語り口が人気の先生です。

が一つのめやすになりましょう。しかし何十回でも何千回でも、お気のすむまで結構ですし、時間がなければ一回でも構いません。大切なのは回数よりも、そうしてゆく中で、常に阿弥陀様と親しくさせて頂くことでしょう。

質問4

念仏を称えるとなぜ極楽へ生まれ変わるのですか？そして生まれ変わる極楽とはどんなところですか？

最初の質問ですが、それは、極楽を建立された阿弥陀さまが、菩薩であられた時、こんなお誓いをたてられたからです。

「もしも、あなたが私の建立した極楽浄土に生まれたいと望むのであれば、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えなさい。そうすれば、あなたが命終える時には必ず私が迎えに行き、その望みを叶えましょう。もしこの願いが叶わなければ、私は決して仏にはなりません」と。阿弥陀さまは、この誓願を成就されて仏となられた方なのです。ですから、私たちがお念仏を称えれば、必ず極楽浄土へ生まれる

ことができるのです。

次の質問ですが、極楽では、目に見えるもの、耳に聞こえるものなど、私たちの五感にふれ、心に届くものすべてが、自然と私たちが悟りの境地へと誘われてきます。そして、先立たれた大切な方との再会も叶います。ですから私たちは、そこで行を修めて、速やかに悟りを開き仏となることができるのです。



【回答者紹介】

林田康順(はやしだ・こうじゅん)

大正大学准教授。大本山増上寺布教師。神奈川・生麦・慶岸寺副住職。

☆笑顔が素敵な林田先生。法然上人の

教えを分かりやすく解説してくれる仏

教講座はとても人気です。

教えて法然上人

七つの質問でわかる浄土宗の教え

質問5 現世で悪いことをしてもお念仏を称えたら罪が消えて、亡くなる往生して極楽へ行けるのですか？

「光明は限なくそぞぐ」阿弥陀佛の十三光の中、特に清浄光、歡喜光、智慧光に浴して三毒（貪、瞋、痴）の罪が浄化される。而して、仏の光、大慈悲の前に悪人も善人もありません。悪人が往生するのは納得できないというのは、一般的には当然な考えですが、仏の力は人間の尺度で測ることはできません。そうでない道はずした者に救いが無くなってしまう。

果して、悪人が救われない宗教に存在価値があるのでしょうか、悪人を見捨てた宗教が真実の教えといえるのでしょうか。人には誰にでも仏性が備わり、よき人との出会いや、仏縁により深い反省で、改心が望めるものです。

法然上人は「我浄土宗を立てる趣意は凡夫の報土に生まるるを示さんが為也」と云っています。阿弥陀仏が報土（極楽）を造られた理由は、十悪五逆の極悪の罪人をも救済してあげようという誓願によるものです。

それに、内省すれば誰でも人は多くの罪を犯している。それは、法然は愚痴、親鸞は愚禿、良寛が大愚と称し、自覚していたことでもわかります。「観経下下生品」では、五逆十悪の諸悪をなし、不善を具する者を愚人と云っています。この救いなき輩を対象としたのが、阿弥陀仏の本願です。浄土門は愚痴に帰り、称名念仏にて極楽に生まるといふ、善導大師から学ばれた法然の確信の教えです。しかし、妙薬があるからといって毒を好んで飲んではいけません。

法然上人は「小罪をも犯さじと思いて念仏道に精進せよ」と戒めていらつしやいます。



【回答者紹介】
藁谷真敬（わらがい・しんきょう）
 梅窓院副住職。元淑徳学園および東亜学園教師。専門は仏教文学。
 ☆先々代から梅窓院の学問的支柱となり、資料編纂などに携わってこられました。

質問6 往生する為に念仏を称えると聞きましたが、念仏を称えることで、この世でのご利益やよいことはありますか？ また、あればそれはどんなことですか？

「南無阿弥陀仏」と念仏を称えることは、西方極楽浄土の仏さまである阿弥陀仏を帰依し、信仰することを表す大切なおこないです。念仏を称えることによって、阿弥陀仏に対するひたすら祈りやひたむきな願いが、はっきりと確かめられ、しっかりとできることになるのです。しかも「南無阿弥陀仏」と称名する繰り返しのなかで、たとえば、現実の時間の経過や、場所の共有というこのなかで、身体も精神

も落ち着いて、そこに生き方や暮らし方のよい意味での安定がもたらされるのです。

からだどこころの安らぎにまさるよすがが、ほかにあるでしょうか。

「南無阿弥陀仏」の称名念仏の実践は、日々の生活のなかでよい時間を過ごし、人間の生き方としてよいあり方であると感ずることに、きつとなることと思えます。



【回答者紹介】
勝崎裕彦（かつざき・ゆうげん）
 東京・四ツ谷・香蓮寺住職。
 大正大学仏教学部長・教授。
 ☆幅広い仏教の知識をお持ちで、仏教にまつわる本も出版されています。『青山』の法話も好評連載中。

質問7 辛いこの世から一日も早く離れて、極楽へ行きたいのですが、どうしたらよいですか？

私たちは、今、奇跡のような確率の中から、人としてこの世に生を受け、阿弥陀さまのみ教えに出会いました。ですから、いかなる苦しみがあろうと、最後まで人生をまっとうし、念仏を日課とし阿弥陀さまのお救いを信じることが大切と思われまます。自分のいのちは、決して自分だけのものではない。仮に自らのちを捨てること

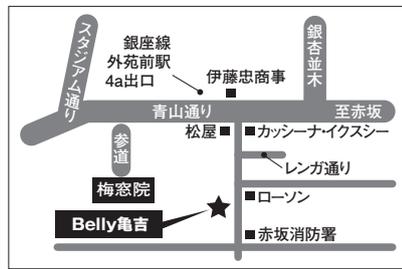
あれば、悲しみ苦しむ人がいることを思い起こして下さい（医療の進歩によって起こってきた、末期の過剰医療の問題は別ですが）。私たちが、どんなに絶望しようと、阿弥陀さまは、あなたを見捨てることはありません。



【回答者紹介】
川添崇祐（かわそえ・そうゆう）
 梅窓院広報部副部長。
 元小石川淑徳学園校長。
 ☆大正大学時代、梅窓院の学寮に在籍されていました。教師時代の専門は社会科。

モダン懐石 ベリー亀吉

変わった店名の看板に惹かれて扉を潜ると、着物姿のスタッフの方が迎えてくれる。すきやきで有名な『銀座せきてい』の姉妹店『ベリー亀吉』だ。驚いたのはメニューの豊富さ。ランチにもかかわらず、お弁当から蕎麦、しゃぶしゃぶ、すきやき、そして歌手であるオーナーさんの案で始まったカタブラーナ御膳等……。店名同様、興味



営業時間／ランチ (平日) 11:30~14:30
(日・祝) 11:30~16:00
ディナー(平日) 17:30~23:00
(日・祝) 17:30~22:00
定休日／年中無休 席数／55席
住所／東京都港区南青山2-18-20 南青山コンパウンドB1
TEL／03-5771-6275 FAX／03-3479-7252



鯛の小鍋。単品での注文もできます。



地下にお店があります。



個室は4名～。



人気のお好み弁当(2700円)

の湧く内容だ。ちなみに店名はオーナーのペットのミドリガメの名前から。落ち着いた店の雰囲気にもマッチした遊び心が食事のひと時をより和やかなものにしてくれる。料理長おススメの鯛鍋は、骨を抜いてお腹に赤飯を詰めており、出汁がとろとろと絡まって、これからの季節には嬉しい一品だ。名物の「一口いちご大福」も是非!!

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○ 竿灯を引き継ぐ差し手しなやかに

◎入選

○ 御句碑に一句授かり天高し

○ 晩翠の住みし庵や竹の春

○ 蹲のみなもに浮ぶ紅葉かな

○ 秋日和石けんにはふ路地のあり

○ 柿たわわ秋の終りの会津線

○ 頰杖の無言の暫し秋深し

○ 新しき墓所となりぬて秋彼岸

○ 川舟の流れに添ひて秋の蝶

○ 銀杏黄葉より降り注ぐ光の粒

◎選者詠

○ 秋蝶の近江の風にのりにけり

(ワンポイントアドバイス)

吟行にいくと、まず気になるのは季語です。何か花は咲いてないか、季語になる鳥や虫の姿はないか、とかに気を使います。それも大事なことです。が、もう一方で、自分はいまどんな自然や季節の中に身を置いているのか、と心静かに思うことも大切です。そうした思いの中で選びとった季語を詠み込むことで、自分と自然や季節との静かなつき合いができるのかと思われ

大崎 紀夫

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月15日を締切、平成23年3月発送の『春彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

第四十一回

食は命

食養研究家 武鈴子

奈良茶飯で肝腎を補養しよう

おせちの三点セットといえば、ごまめ、かすのこ、黒豆など。ふっくらと甘く煮た黒豆には「まめで達者」であるようにとの祈願がこめられているといわれる。漢方の面から見ると、黒豆は利尿、解毒にすぐれ、腎臓、肝臓の働きを補う大切な食品です。

江戸時代は、明暦の大火(1657)のあと、浅草に「奈良茶飯」の店ができて、豆腐汁、煮しめ、煮豆などとともに売出されて大繁盛したといえます。奈良茶飯は、茶の煎じ汁で炊く茶飯に炒り大豆などを加えて炊き上げ、茶汁をかけて食べるものこと。『今朝食鑑』によると、奈良の東大寺、興福寺などの僧舎で作られたのが始まりで、茶飯に炒り黒豆、小豆、焼き栗などを混ぜてもよく、感冒、頭痛、気うつ症などに効くとあります。

作り方は、「米2升に煎じ茶汁を普通の水加減にしかけ、盃1杯の酒を加えて炊く。ご飯がほどよく炊けてきたら盃1杯の醤油を入れる。ご飯に塩気を入れる場合、始めから入れると、ご飯が固くなって煮えにくいので、よく煮立ってから入れるのがよい。茶飯のときは、茶ばかりで炊く。奈良茶の場合は、炒った黒豆の皮を取って入れる。また、さっと湯煮して入れる方法もある。」「江戸料理事典」(松下幸子著)と書かれています。

中医学では、冬季は腎臓が、春季は肝臓の負担が多くなるといいます。冬から春への移行期は特に、奈良茶飯でも食べて肝腎を補養しましょう。

行事予定

第52回 念仏と法話の会

2月22日(火)12時半～
(受付は午後12時より)

法話「阿彌陀様の救いを戴く」
豊嶋瑞俊上人
(宮城教区 往生寺住職)

仏教講座

全講座 午後6時～8時
(受付は午後5時より)
受講無料・祖師堂

江南の古都と仏教

阿川正貫先生
(浄土寺住職 大正大学講師)
③3/4(金)蘇州・杭州を中心に

恵心僧都源信の生涯とその教え

新井俊定先生
(天然寺住職 大正大学出版会主管)
③3/10(木)恵心僧都の教えII

大乘仏教を読む

勝崎裕彦先生
(香蓮寺住職 大正大学仏教学部長・教授)
②1/6(木)般若経を読むIV—『金剛般若経』の教え
③2/10(木)般若経を読むV—『仁王般若経』の教え

法然上人のみ教え—『選択集』を読む—

林田康順先生
(大正大学准教授 大本山増上寺布教師 慶岸寺副住職)
③1/24(月)『選択集』第2章②—二行の得失—

ブータン・スタイル—幸福のカタチ—

本林靖久先生
(真宗大谷派僧侶、大谷大学・佛教大学講師)
③2/18(金)豊かな死をめざして

※各講座第3回目の最終講座は、後半、茶話会となります。講師の先生方や受講生同士、この機会に交流を深めてください。

平成
23年

年間行事予定

◆修正会

1月1日(土)



修正会

◆第52回 念仏と法話の会

2月22日(火)

◆春彼岸会法要・寄席・物産展

3月21日(月)



物産展

◆はなまつり

4月2日(土)～8日(金)

◆800年大遠忌法要・大施餓鬼会法要

5月21日(土)



大施餓鬼会法要

◆第53回 念仏と法話の会

6月17日(金)

◆盂蘭盆会法要

7月13日(水)

◆団体参拝旅行 ～岐阜 高山・郡上～

8月上旬予定



彼岸寄席

◆秋彼岸会法要・寄席

9月23日(金)

◆お彼岸ライブ

9月24日(土)



お彼岸ライブ

◆文化講演会

10月中旬予定

◆十夜法要・芋煮会

11月19日(土)



十夜法要・芋煮会

◆ファンデンフックピアノリサイタル

11月25日(金) 会場:サントリーホール

※予定は変更になる場合もございます。ご了承下さい。

発行/梅窓院

発行日/平成23年1月1日

発行人/中島 真成

編集/青山文化村

住所/〒107-0062

東京都港区南青山2-26-38

電話/03-3404-8447

FAX/03-3404-8446

ホームページ/<http://www.baisouin.or.jp/>

E-Mail/jodo@baisouin.or.jp

題字/中村康隆前浄土門主

総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院よりお知らせ —護寺費・年会費・管理費の振込について—

梅窓院では、護寺費・年会費・管理費の郵便振替またはコンビニ振込につきまして、平成23年4月ご入金分以降は、「振込控え」を請書の替わりとさせていただきます。

ご事情により当院の請書が必要な方は、郵便振替の方は通信欄に、コンビニ振込の方はお手数ですがお手紙にてお申し付け下さい(ご持参される方には、これまで同様に請書を発行致します)。

皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

尚、コンビニ振込された場合、梅窓院へ入金連絡がくるまで約10日掛かります。郵便振込された場合は、約2～4日掛かりますので3月までにご納付予定の方はご了承の上、請書返送をお待ち下さいますようお願い申し上げます。